

ま ち か ど 通 信



リモート会議システム活用セミナー

8月20日(休)、ゆめぼりすセンターでリモート会議システム活用セミナーを行いました。

オンライン会議とは、パソコンやスマートフォンなどを使い、インターネット上で会議を行うことです。

この日は、みえ市民活動ボランティアセンター職員から、利用者が多いとされるオンライン会議ツール「Zoom」の使い方を学びました。

参加者のほとんどは住民自治協議会の関係者で、新しい生活様式を取り入れて、地域で活動していこうと参加しました。

1・2. パソコンやスマートフォンの画面でオンライン会議を体験する参加者。 3. 講師は、県内でもこのような研修が増えていると話しました。 4. 新しい生活様式の実践に向けて、興味深そうに研修を受けました。



中学生のメッセージ 2020 ～第42回 少年の主張三重県大会～

8月29日(土)、伊賀市文化会館で中学生のメッセージ2020～第42回 少年の主張三重県大会～が開催されました。

これは中学生が日頃感じていることなどを発表し、自分の生き方や社会とのかかわり方を考えることを目的として毎年開催されています。

今年度は県内71校から9,774人の応募があり、この日はその中から選ばれた12人の中学生が発表しました。

1. 最優秀賞には鈴鹿市立平田野中学校の松本未空さんが選ばれました。
2. 伊賀市からは上野南中学校の林あむさんが参加しました。
3. 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、座席を空けて開催しました。
4. ロビーにはデザイン画入賞作品が展示されました。
5. 発表を聞く中学生たち。



上野天紳亭
三重県伊賀市上野新町二七五ノ二
電話 〇五九九五(二)〇六一五

伊賀の味
七兵衛 回子

ABC HOUSING

ご来場プレゼント

10/1(木)・31(土) 広告
※水曜日を除く

期間中、住宅公園受付で「住まいのアンケート」にお答えください。モデルホームご見学後、ご覧の賞品をプレゼントします。

ポケットにも入るミニサイズの
ステンレスミニボトル 125ml

さらに本誌をご持参でWプレゼント!

冷蔵庫にピタッと貼れる
アニマルフードクリップ 3個セット

※写真はイメージです。その他の商品は含みません。※いずれかひとつ。※全6色。色は選べません。
※賞品は予告なく変更される場合があります。※賞品は他のチラシ等の賞品と重複して受け取ることはできません。(WEB限定プレゼントを除く) ※「住まいのアンケート」はABCハウジング並びに当会場の出展住宅会社からお客様に對し、住宅購入・暮らしに関する情報等をご案内する目的で取得し利用します。1世帯1名様限り、期間中1回限り。20歳未満の方はご遠慮ください。

名張住宅公園

国道165号線沿い
Tel.0595-62-0006

開場時間 / 水曜日を除く 10:00～18:00
〒518-0445 名張市瀬古字藤ノ木495-1

新型コロナウイルス感染症対策を行いながら営業してまいります。最新情報はABCハウジングホームページにてお知らせいたしますのでご確認ください。

※掲載広告について不明な点は直接広告主へお問い合わせください。

水と歴史でつながる 伊賀城和 (伊賀・山城南・東大和) 定住自立圏



木津川がつなぐ地域の歴史



【問い合わせ】 総合政策課
☎ 22-9620 FAX 22-9672
✉ sougouseisaku@city.iga.lg.jp



伊賀市が中心となり定住自立圏を形成している京都府笠置町・南山城村、奈良県山添村とは、木津川とその支流である名張川を通じて、古くから結びつきの強い地域でした。江戸時代には大半が伊賀国と同じ藤堂藩領であり、山城国(京都府)と大和国(奈良県)にあることから「城和領」と呼ばれていました。今回は木津川がつないだ地域の歴史をいくつか紹介します。

岩屋瓦窯で出土した瓦と同じものが、伊賀国分寺跡、三田や才良にある古代の寺院跡からも出土しています。岩屋瓦窯で製作された瓦は、奈良時代の伊賀国の寺院でも用いられていたのです。重い大量の瓦を運ぶには、名張川・木津川の水運が利用されたと考えられます。

長田川通船計画

木津川を本格的に舟運(舟で荷物を運ぶこと)として整備しようとした人びとがいました。京都の高瀬川すみのくらしやういの開削などを手掛けた京都の豪商角倉了以は、慶長10(1605)年頃に木津川を舟運に利用するため、開削したとされています。

奈良の都と伊賀の材木

奈良に都が造営された頃、伊賀国は平城京や東大寺などの造営にかかる材木の供給地となりました。伊賀国から材木を搬出する時に使われたのが、木津川です。大量の材木を消費する奈良では、近江国(滋賀県)や山城国からも材木を集めていましたが、1本の河川で奈良に至る伊賀国は材木の供給地としては最適でした。木津川沿いの町「木津」の地名は、材木を陸揚げするための津(舟着き場)に由来します。

この時の木津川開削の詳しい様子はわかりませんが、江戸時代後半、文化年間(1804～18)に至って、再び角倉家による開削が行われます。長田川通船計画と呼ばれるものです。文化12(1815)年1月、小田から南山城村の大河原を経て笠置に至る5里(約19.6km)の舟運が開通しました。この開削は木津川の舟運の障害となる大石を除去することが主な工事であったようで、施工前と施工後の絵図が残されています。

伊賀国の材木は、その後も伏見城などの建設にも用いられました。

工事に5年を要した長田川通船計画は、開通から半年後、大水により不通となりました。伊賀国から笠置までの区間は急流で、たびたび不通となったようです。しかし、米のほか、丸柱で焼かれた伊賀焼などもこの舟運を使って大坂に出荷されました。

古代寺院と運ばれた瓦

山添村の笠間川沿いの毛原地区には、奈良時代に建てられた毛原廃寺という寺院跡があります。集落の中には、大きな礎石(柱を据えた石)があり、その配置から中門や金堂、講堂があったことがわかっていて、金堂は、奈良の唐招提寺に匹敵する建物であったと言われています。

川を通じてモノが行きかい、人びとのつながりが生まれました。

毛原廃寺から出土した瓦は、毛原地区の隣の岩屋地区にある、岩屋瓦窯跡で製作されたと考えられています。

伊賀と山城南、東大和は、古くて新しいつながりをもつ地域として、これからも結びつきを深めていくことでしょう。

(伊賀市教育委員会文化財課)



▶ 国史跡毛原廃寺の礎石群



▶ 伊賀上野長田川筋城州笠置
迄川絵図(伊山文庫蔵)に描
かれた木津川(島ヶ原付近)